

平成 21 年度第 1 回学生表彰「東京大学総長賞」受賞者一覧

【個人受賞】 受賞 3 件：候補 13 件

所 属	氏 名	選考区分	題 目
工学部計数工学科	西園 良太	課外活動	自転車競技における活躍 全日本学生ロード及びインカレロードにおいて優勝
教育学部総合教育科学 学科比較教育社会学 コース	笠井 友貴	課外活動 国際交流	女流アマ名人戦連覇・将棋を通じた国際交流企画の立案、実行
文学部フランス語フ ランス文学専修課程	安藤 巖乙	課外活動	ユーラシア大陸 2 万キロの自転車による 単独横断旅行

【団体受賞】 受賞 2 件：候補 12 件

団 体 名	選考区分	題 目
東京大学法科大学院出張教室	社会活動	中高生を対象とする、創作的な「法律授業」の計画、実践を通じて法教育の普及に貢献
東京大学海洋調査探検部硫黄鳥島 遠征隊	課外活動	40 年にわたる海洋調査・探検活動と硫黄鳥島遠征調査の成功

平成 21 年度第 1 回東京大学総長賞
受賞者の概要（当日パンフレット原稿より）

【西園良太（工学部 3 年）】

西園氏は第 21 回全日本学生個人ロードタイムトライアル自転車競技大会において優勝し、団体戦においても 4 位という過去最高の結果を残した。今年 8 月末に催された第 65 回全日本大学対抗選手権自転車競技大会ロードレース（通称インカレロード）においても優勝し、東大自転車部創設以来のインカレ優勝を果たした。さらに昨年度 2 位で終了した同連盟主催の年間を通したシリーズ戦である全日本学生ロードレースカップシリーズ戦ですでに三勝を挙げ、現在（第六戦を終了した時点で）1 位をキープしている。自転車競技伝統校がひしめく中、並み居る強豪を倒してのインカレの優勝は特筆すべき大活躍であり、高く評価された。

【笠井友貴（教育学部 4 年）】

笠井氏は将棋の女性アマチュア棋戦の中でも最も歴史と権威のある女流アマ名人戦を 2007・2008 年と連覇した。2 連覇を達成するのは史上 6 人目の快挙である。その実力を買われ、第 31 期女流王将戦、第 1 回・第 2 回大和証券杯女流最強戦、第 1 回・第 3 回マイナビ女子オープンなどのプロ棋戦にアマチュア代表として出場し、プロ棋士に勝利を挙げてその名を全国に轟かしめた。将棋を通じて国際交流を図る「アジア国際学生将棋交流企画（AISEP）」には立案時より会計として携わり、責任者を務めて企画を成功に導いた。これら将棋を軸とした多彩な活動、国際的かつ幅広い世代への将棋の普及への貢献が高く評価された。

【安藤巖乙（文学部 4 年）】

安藤氏は 2008 年 4 月に中国青島を自転車で出発。パミール高原を越え、中央アジアを一路西進。東欧を回り、アルプスを越え、本年 3 月にモロッコのカサブランカに至るまで、総計 2 万キロの行程を単独で走行した。食中毒などの困難を乗り越え、現地の政治情勢の変化にも機敏に対応し、稀に見る強靱な意志と体力をもって当初の目的を達成した。さらに旅行中随時更新されたブログは一般からも大きな反響を受けた。途中の便宜のために予めロシア語を修得したり、前年にアイスランド一周の腕試しをするという周到な準備作業も特筆すべきである。この偉業は他の学生の勇気を奮い立たせるものと賞賛され、高く評価された。

【東京大学法科大学院出張教室】

出張教室は本学法科大学院の学生が中学・高校に出向き法律の授業(法教育)を行う団体である。法律が身近に感じられた等の生徒からの声を活動の原動力として、法科大学院の勉強と両立させながらも、発足 5 年でこれまで 30 を超える学校で計 3000 人以上の中高生に法教育を行ってきた。その過程で従来未開拓であった中学・高校における法教育の充実に大きな役割を果たした。出張教室の活動は社会に開かれた法曹の養成という法科大学院制度本来の理念にも沿うものであり、本学法科大学院から育つ法曹の多様性、柔軟性を高める貢献が高く評価された。

【東京大学海洋調査探検部硫黄鳥島遠征隊】

東京大学海洋調査探検部は、創立以来レジャー潜水が普及していない日本・海外各地へ遠征し、潜水技術の研鑽と調査探検活動を続け、定期的なシンポジウムの開催などで、社会にその成果を発信し続けてきた。創立時からの経験・ノウハウに基づき重大な事故がなく、安全管理に関する実績も特筆される。本年 8 月には創立 40 周年事業として、活火山の無人島、硫黄鳥島に遠征し、同島の魚種類のデータベース作成と酸性・高温下での造礁サンゴからソフトコーラルへの群集シフトと考えられる事象を発見し、専門家の高い評価を受けた。総長が標榜する「タフ」な東大生の象徴と言え、これらの実績が高く評価された。